サンガード

保険ＥＲＭセミナーを開催

日本の保険業界へもビジネス展開を

安永代表

売上規模でオラクルやＳＡＰに次いで、世界第３位にランクされる業務アプリケーション・サービス会社（英・データモニター調べ）のサンガード（本社・米国）が、日本の保険業界へのソリューションビジネスに進出した。同社の日本法人、サンガードジャパン（東京都千代田区）がこのほど開催した保険会社向けセミナー「統合リスク管理（保険ＥＲＭ）への実践的アプローチ」で、会社概要を説明した安永達幸代表は「今回のセミナーを機会に、日本の保険業界でのビジネス展開を今後さらに進めていきたい」と意欲をみせた。

セミナーに合わせて来日した同社ｉＷｏｒｋｓリスク管理エグゼクティブＶＰのピーター・ハスルバッハー氏は、グローバル・フォーチュン５００でトップ50位にランクされる生保の半数以上を含む50カ国の２５００を超える顧客拠点で、同社の保険ソリューションシステムが採用されていることや、ガートナーなどの調査機関で高い評価を受けていることなどを強調。また、同社の３００社を超える欧州での導入実績から、特にソルベンシーⅡ対応で保険会社が直面している課題とその対応策をシステム、非システムの両面から解説。数多くのプロジェクトから得た教訓から、同社が考えるソルベンシーⅡ対応へのベスト・プラクティスとソリューション・フレームワークを提案した。加えて、チェンジマネジメントの重要性に触れ、「ＩＴ導入だけでは成功しない。全てのステーク・ホルダーと経営レベルからの参加とサポートを得た早期対応が重要」との考えを示した。

会場のようす

セミナーではこのほか、ゲストとしてあらた監査法人・プライスウォーターハウスクーパースディレクターの石岡秀之氏が「保険ＥＲＭとその経営への活用」と題して講演。ＥＲＭやエコノミックキャピタル（※）の考え方、ストレステストについて解説した。また、イメージ情報処理に関するハードウエアやソフトウエアを開発・製造しているバンクテック・ジャパン㈱執行役員の野口悟氏が「本邦保険会社のオペリスク戦略」をテーマに、ＥＲＭの重要性やオペリスクの位置付け、ソルベンシーⅡ対応へのステップについて説明した。

（※）金融機関が取っているリスクから発生する非期待損失をカバーするために必要な資本のこと。